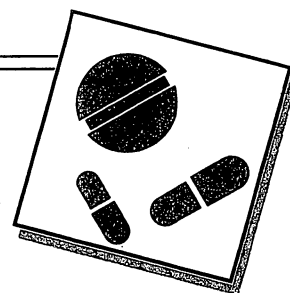


# 高知医療センター薬剤師のがん領域における 10年間の取り組みと新がんセンターの構想



高知医療センター 薬剤局長 山本 創一

## 「はじめに」

高知医療センターは平成17年3月に二つの自治体病院（高知県立中央病院と高知市立市民病院）が統合され発足しました。高知県における高度先進医療と救急医療の要としての役割を期待され、6センター（がんセンターや救急救命センターなど）に機能集約されています。前述の2病院から引き継いだ、自治体病院がやるべき役割を明確なコンセプトとし、職員一丸となって進んでいる病院です。以下に病院の概要を示します。（実績は2014年度）

【名称】 高知県・高知市病院企業  
団立高知医療センター

【所在地】 高知県高知市池2125-  
1

【理念】 医療の主人公は患者さん  
【基本方針】

1. 患者さんから信頼され、温かい人間性に裏打ちされた夢と希望を提供する医療を実践します
2. 地域医療連携を基本とした良質で高度な医療を提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします
4. 職員が誇りとやりがいを持ち、成長できる病院にします

【診療科】 40科

【病床数】 660床（一般病床：588床、精神科病床：44床、結核

病床：20床、感染症病床：8床）

【センター機能】 がんセンター、循環器病センター、地域医療センター、総合周産期母子センター、救命救急センター、こころのサポートセンター  
医師数：191名  
看護師数：704名  
平均在院日数：12.7日

## 【薬剤局概要】

薬剤師数：28名（正職員26名、非常勤職員2名）  
薬剤事務：3名  
SPD スタッフ：12名  
院外処方せん発行率：92.6%  
薬剤管理指導算定件数：17644件  
病棟薬剤業務加算：算定なし

## 「がん領域での薬剤師の取り組み」

1. 患者指導：抗がん剤はハイリスク薬剤であり、化学療法を実施する患者全てに薬剤指導を実施してきました。入院患者は各フロア担当薬剤師が化学療法前に面会し治療薬の説明を行うと共に、過去の治療での有害事象（消化器症状、発熱、神経症状、皮膚障害など）の聴取や電子カルテから検査値等の情報を得て、適正使用の確認や支持療法やTDM等安全使用を推進する

ための提案をしています。外来患者に対しては外来ケアルームで初回化学療法患者および化学療法レジメンの変更時に患者面談（薬剤指導・副作用聴取など）を実施しています。特に初回指導は注射・内服薬ともに抗がん剤治療のインフォームドコンセントの一環として説明する役割を持っているため重要な業務と位置付けられます。

2. 抗がん剤レジメンの管理体制：開院時より抗がん剤レジメンオーダーシステムを採用し、抗がん剤使用時の適正使用と安全管理を図ってきました。レジメンを一元管理するために、薬剤師が抗がん剤レジメン管理委員会の委員長および事務局を担当し、レジメンの評価、マスタ登録を行っており、レジメンの定期的な見直しも継続して実行しています。特に支持療法は、制吐薬を癌治療学会ガイドライン準拠で統一し、外来でのシスプラチン投与を可能とするため輸液量について検討を行い Short hydration レジメンの導入を行いました。薬剤師がレジメンの管理を行うことで、診療科ごとのレジメンが病院として統一され安全管理を進めることができました。

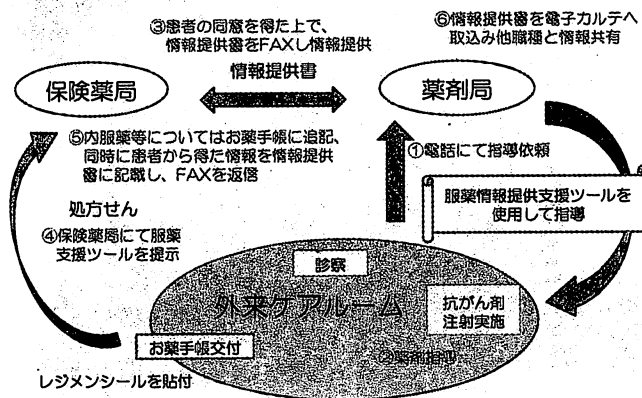


図1 情報提供書を使用した外来での情報連携

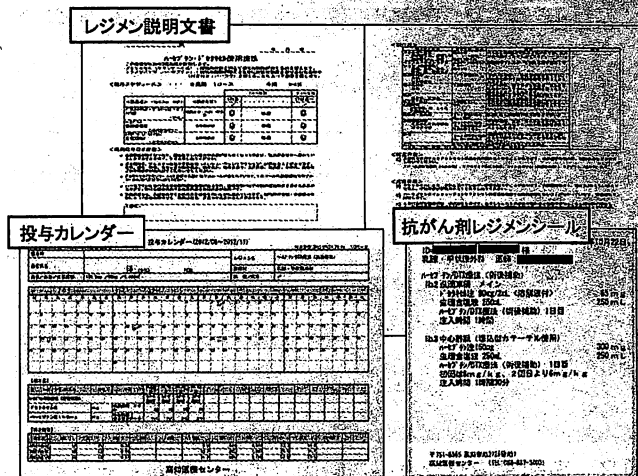


図2 患者に提供する服薬支援ツール

3. 抗がん剤調製時の安全管理機能：薬剤局部門システムに電子カルテのレジメンオーダー等のデータを受信し、無菌調製記録票の作成、薬剤希釈量・採取り量等の印字、身長、体重、体表面積、生化学検査値、抗がん剤標準投与量等の情報を印字する機能を持たせました。無菌調製については、すべての抗がん剤を薬剤局にて調製することとし、休日についても平成25年より開始し、調製者および投与する看護師の被曝防止のため、輸液ライン付き閉鎖式調製システム(対象薬剤：シクロホスファミド、イホスファミド、ベンダムスチン)を使用しています。新がんセンター開設をきっかけに、対象薬剤の拡大と閉鎖式調製システムの見直しを検討しています。

4. がん関連情報の開示：当院は地域がん診療連携拠点病院であり、情報開示、資材提供、研修を実践して高知県のがん治療のレベル向上を図る役割を持つと考えています。平成18年には高

知県病院薬剤師会会員が勤務する施設で全職種対象の注射用抗がん剤調製についてアンケートを行い、調製実態を明らかにし、注射用抗がん剤の安全管理(調製方法、被曝防止アイテム等)や患者指導用の資材を作成・提供しました(第47回全国自治体病院学会にて発表)。平成22年には高知市内の保険薬局に対して、内服用抗がん剤処方せんの応需状況、調剤時の処方監査、患者指導の現状、必要な情報等についてアンケートを実施しました。当院ではすべての薬剤を院外処方しており、また内服・注射併用の化学療法が増加しているため、レジメン内容の情報を保険薬局・連携病院と共有することは重要かつ当然と考えています。

5. 薬薬連携：外来化学療法患者への取り組みとして平成25年には薬剤師1名を外来ケアルームに配置して、患者指導(薬剤説明書、お薬手帳交付と薬剤シール添付)を行うと共に、かかりつけ薬局へ情報提供用紙を用い

た患者情報連携を試行しました。情報提供用紙の内容は病院での情報(病歴、治療歴、薬歴、副作用・アレルギー歴等)であり、保険薬局にファックスで送信し、保険薬局からは用紙に薬局での聴取内容、副作用経過等を追記して病院にファックスで返信する方法を取りました。残念ながら、試行期間後は人員不足のため薬剤師常駐は実現できておりませんが、病院・薬局間で直に情報のやり取りができるため、お薬手帳とは別の有用なツールであると考えています。(図1および図2)

### 「新がんセンターの紹介」

1. 新がんセンター構想：がんセンターは開院以来、地域がん診療連携拠点病院として、高知県民・市民のために、地域連携施設および関連機関と協働して、高知県内で完結する標準的かつ高度で積極的ながん治療を提供してきました。さらに、がんに関する信頼のおける、かつわかりやすい情報を発信し、患者さ

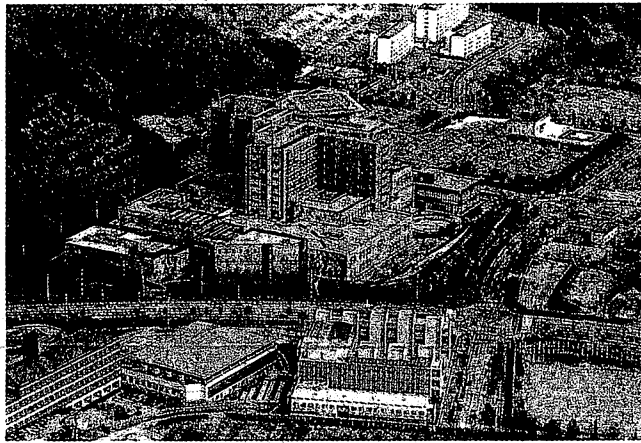


図3 高知医療センター俯瞰図（点線：新がんセンター、道路手前は県立大学）

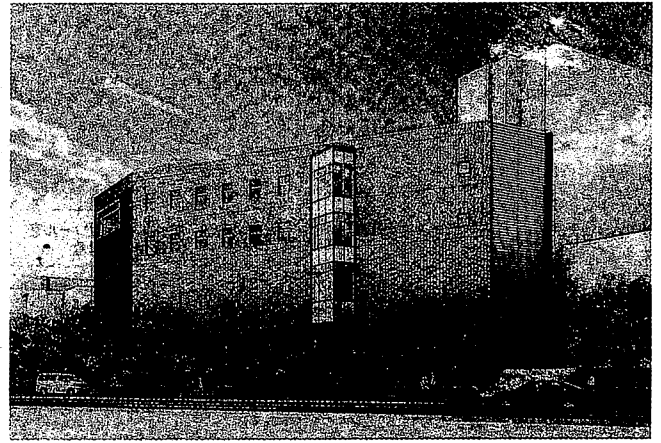


図4 新がんセンター完成予想図

ん、ご家族の皆さんが、がんを恐れることなく、不安を持つことなく、自ら治療に参加し、自分らしい生き方ができるように支援しています。高知県は全国に先駆けて高齢社会を迎えています。更に2025年には超高齢社会が訪れます。がんセンターでは2017年度オープンに向けた「新がんセンター(仮称)」を整備するプロジェクトが動き始めました。具体的には、診断機能向上のためのPET-CTの導入、高精度放射線治療装置の導入、外来がん化学療法のベッド数増床、そして、がん患者さんへのサービス向上のための「がん相談支援センター」、「がん患者サロン」を充実させる予定となっております。(図3および図4)

## 2. 薬剤師の準備・対応 3階の化学療法フロアではベッド増床

の増加に伴ってがん患者さんの増加も内服薬から点滴薬へと移行する患者さんの増加も想定されています。また、がん患者さんの増加に伴ってがん相談支援センター、がん患者サロンの充実も必要となります。がん相談支援センターは、がん患者さんやご家族の不安を解消し、治療の意思決定を支援する役割を担っています。がん患者サロンは、がん患者さんが安心して治療を受けるための場として、がん相談支援センターと連携して運営されています。

(21床から35床、1日50名予想)を予定しており、抗がん剤調製件数、指導患者数ともに倍増することが予想されます。フロア内の薬剤調製室に安全キャビネットを3台設置し将来的にはロボット調製装置も視野に入れています。調製担当薬剤師は3名配置しますが、入院患者の抗がん剤調製との時間的バランスと、調製補助業務に当たるテクニシヤンの養成が今後の課題でもあります。また薬剤指導室を設置し薬剤指導担当者1名の常駐体制を作り、全ての化学療法患者への面談・指導を実現し、懸案であった薬薬連携を充実していこうと考えています。

## 3. 治験、臨床研究への取り組み 4階フロアには治験、臨床試験に対応するスタッフ(外部委託のCRC)が常駐し、治験、臨床研究に参加する患者への説

明、同意取得を行います。薬剤局は臨床試験管理センターの副センター長と事務局を担当しており、臨床試験進捗状況の管理、治験薬の管理、厚生労働省や当院ホームページでの情報公開、担当企業・組織との契約業務等の役割を担っています。

明、同意取得を行います。薬剤局は臨床試験管理センターの副センター長と事務局を担当しており、臨床試験進捗状況の管理、治験薬の管理、厚生労働省や当院ホームページでの情報公開、担当企業・組織との契約業務等の役割を担っています。

## 「おわりに」

今まで、高知医療センターの薬剤師はがん化学療法の適正化と安全管理に対して積極的に取り組んできました。病棟での薬剤指導、安全管理、情報提供は一定の成果を上げていると考えます。この度の「新がんセンター」建設により高度で集学的な治療環境が整いましたので、薬剤師も更に知識と技能の研鑽を行い、当院の理念「医療の主人公は患者さん」を実践しチーム医療を支える役割を果たしていきたいと考えます。